



山形県環境技術専門校の挑戦

日頃、当たり前とか知っていることとして敢えて追求したり調べ直したりしないことであっても、改めて注目することによって新しい発見に繋がることがあります。そこに話し合いの持てる仲間がいれば、いつもと違った視点から見つめ直すことが可能になります。現代人は与えられることや決められたことを守ることで社会生活を送っています。平穏な生活はそうして維持されているわけですが、とすれば、それが自発的行動や自由な発想の障害になっていることはないでしょうか。山形県環境技術専門校では、与えられることや教えられることだけで満足するのではなく、積極的に新しいテーマに取り組むことが可能です。そして解らないことや疑問に思ったことは専門の講師陣がサポートします。その繰り返しによって自らの進むべき道を開拓していくことが可能なのです。この一年で完結するのではなく、将来に渡って生きる原動力にする事が重要なのです。

【山形県環境技術専門校の特徴】

環境技術で就職・自立を支援

本校は厚生労働省が提唱する緊急人材育成事業の一環として、再就職や自ら起業を目指している人を支援するため設立されました。環境を教える訓練校は全国的にも例がなく、最新の技術や環境法の改定など社会の実情を反映した訓練内容と、実際に環境や省エネで活躍されている講師陣の指導により、環境をビジネス化するチャンスが大きく開けます。

エネルギー消費量の診断技術者

改正省エネ法が今年4月より施行され、年間のエネルギー使用量が原油換算で1500Kリットル以上使用している事業所はじめ地方公共団体の建築物、及びコンビニなどの店舗や300室以上のホテル、テナントビルなどが、毎年7月までに経済産業省に対し10%以上の省エネ義務を報告することになっています。我が国では54万件の公共建築物が存在するとされ、これら建築物で使用するエネルギーを診断し報告書を作成できる技術者は非常に少ないのが実情です。


再生可能エネルギーの原理から廃棄物処理の基本まで

環境と一口でいっても範囲が非常に広く学ぶべきことは多岐に渡ります。その中からビジネスとして期待されるソーラーエネルギーや風水力発電、バイオマス発電などを特に集中的に指導されます。1年間の訓練修了時点では、自分の進む道が開けることでしょう。

また、エネルギーを消費すればそれに伴う副産物として様々な廃棄物が生成されます。事業所などから排出される産業廃棄物

や下水処理場からの一般廃棄物などに区分され、これらの処理については廃棄物処理法により厳しく管理されています。本校では廃棄物の減量化の可能性を追求し、最終的には資源として活用を目指します。

更新日：2011.9.27

当サイト内PDFドキュメント  をご覧頂くためには「Adobe Reader」が必要です。
正しく表示されない場合は右記よりダウンロード・インストールしてご覧下さい。



Copyright (C) 2010～2011 山形県環境技術専門校 All rights reserved.